

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
**税務大学校広島研修所**

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.4</b>	0.15					<b>3.4</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40					
1 暗騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		<b>3.7</b>	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.30					
2 界壁遮音性能	庁舎・教室棟では授業の妨げにならぬよう遮音性能を上げている	4.0	0.30					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	庁舎・教室棟では授業の妨げにならぬよう遮音性能を上げている	4.0	0.20					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	庁舎・教室棟では授業の妨げにならぬよう遮音性能を上げている	4.0	0.20					
1.3 吸音	庁舎・教室棟では床・天井で吸音を行う	<b>4.0</b>	0.20					
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35					<b>3.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50					
1 室温設定		3.0	0.60					
3 外皮性能		3.0	0.40					
4 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20					
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30					
<b>3 光・視環境</b>		<b>4.1</b>	0.25					<b>4.1</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30					
1 昼光率	教室南面の大きな開口により、昼光率を確保	5.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30					
2 昼光制御	庁舎・教室棟ではブラインド、寮棟では二重カーテンを確保	4.0	1.00					
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15					
1 照度		3.0	1.00					
3.4 照明制御	ゾーン毎に昼光センサーを設置し、自動的に照明器具出力を制御	<b>5.0</b>	0.25					
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.1</b>	0.25					<b>4.1</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50					
1 化学汚染物質	F★★★★の全面採用	5.0	1.00					
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30					
1 換気量		3.0	0.33					
2 自然換気性能	庁舎・教室棟、寮棟とも大きな換気開口を確保	4.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40					<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>4.0</b>	0.40					
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画	バリアフリー計画を積極的に行う	4.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30					
1 広さ感・景観		1.0	0.50					
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画	用途に適した内装、照明計画の実施	5.0	0.50					
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	内装では「防汚生」の高い材料を外装では耐候性の高い材料を採用	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	メンテナンス性に配慮	4.0	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.31					<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.1</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管にステンレス鋼管、消火管に配管用炭素鋼鋼管(白)を使用	4.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			2.2	0.19		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.1	0.29		-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.8	0.31		-	
1	階高のゆとり	庁舎・教室棟では階高さ4M以上確保	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.38		-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		近隣住宅への視線や環境などに充分に配慮	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30		-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	積極的に緑化を行うと共に、地域の通風環境にも配慮	5.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用			5.0	0.20		-	5.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	地域の風を建物に取り込むよう配慮	5.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電パネルを設置し太陽光を変換利用	5.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ERR=0	3.6	0.30		-	3.6
4 効率的運用			3.5	0.20		-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	税務大学校内で運用、維持、保全の基本方針が計画されている	4.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.4
1 水資源保護			4.0	0.15		-	4.0
1.1	節水	節水コマにくわえて、省水型機器(擬音装置)を用いている	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			4.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用(自動灌水)を導入	4.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無	雑排水再利用システム(手洗い付ロータンク)を導入	4.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63		-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用、エコマークを取得したタイルの利用	4.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装は乾式工法を用い躯体と仕上げ材料が分別を容易にしている	4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	断熱材		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.9
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.33		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-		-	
3	交通負荷抑制	敷地周辺の交通量に配慮した計画	5.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	税務大学校内で運用の基本方針が計画されている	4.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	夜間照明や広告のない計画	1.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	